

令和 8 年 7 月 1 4 日

東部農林水産振興センター出雲農業部

標 題	みんなで学ぼう田んぼに生息する生き物たち！ ～出雲市独自認証基準の策定に向けて～
-----	--

(ダイジェスト)

出雲市は、令和 9 年のトキ放鳥を見据え、有機農業を始めとした環境にやさしい農業を推進しています。トキの生息には、田んぼ等での餌資源の確保が必要であることから、このたび、放鳥地となる同市稗原地区で地元生産者らと「田んぼの生き物調査」を行ったところ、カエルなどの豊富な餌資源を確認できました。今後、取り組みを地域住民に広げながら、トキの餌場拡大とそこで生産されたブランド米の独自認証基準づくりを支援します。

出雲市では、令和 9 年初夏にトキの放鳥が西日本で初めて行われます。出雲市では、国の「みどりの食料システム戦略」の目標達成に向け、環境にやさしい農業を推進しており、その中で、トキ放鳥にあたり餌場確保につながる水田管理体系の確立やトキと人との共生を目指し、令和 5 年度に「出雲市環境にやさしい農業研究会」が設立されました。

研究会では、栽培に見合う販売戦略として独自認証基準によるブランド化に向け、認証基準の策定を計画しています。そこで今回は、認証基準の 1 つに検討している生き物調査を研究会構成員である生産者と関係機関の総勢 24 名で、放鳥地となる稗原地区の有機的栽培 3 年目と 1 年目のほ場で行いました。

生き物調査は、当農業部が講師を務め、県農業技術センター発行の水稻有機栽培技術指針に沿って行いました。調査では、カエル類 28 匹、クモ類 20 頭、水生コウチュウ類及び水生カメムシ類 76 頭（※）を捕獲し、いずれの項目も生き物が多種多様であり、評価レベルが最高ランクとなりました。参加者からはトノサマガエルやヌマガエルなど具体的な生き物の名前が飛び交い、生き物に対する関心の高さが感じられました。また、トキ放鳥にあたってはカエルの他ドジョウなどの生息が重要となることから、今後はこれらが生息できる環境（ビオトープ等）を整え、更なる生き物の増加が必要と考えられました。

当農業部では、今回の結果や今後行う佐渡等先進地の調査を踏まえて、地元住民や地域と連携しトキの餌場確保とともに、独自認証基準の策定を支援します。



生き物を捕獲する様子



生き物を仕分けるの様子

※調査は 2 か所の生息数を 2 倍し評価

3	担当者	出雲地域振興第三課	古川雄也	TEL0853-30-5602
---	-----	-----------	------	-----------------